

# 優生手術の「闇」を暴く

●映画「忘れてほしゅうない」上映&トーク

**5月13日(日) 14:00~16:00**

今年1月30日、旧優生保護法の下で、強制的に不妊手術(=優生手術)を受けさせられた宮城県の知的障害女性が、史上初めて、国を提訴しました。これが大きな契機となり、全国各地で、官民挙げての協力体制の中、まさに「障害者狩り」とでもいうべき、すさまじい人権侵害を伴って、優生手術が「国策」として強力に推進されてきたことが、明らかになってきました。広島県でも、13歳の少女に「痴漢の性欲の対象になる可能性大」との理由で手術を受けさせたことや、県衛生部長が「他県に比べ申請件数が少ない」として、対象者を積極的に探すよう要請する文書を出していたことなどがわかっています。

優生手術については、佐々木千津子さん(2013年没)が、20歳のとき(1968年)に、広島市民病院で、卵巣への放射線照射という、旧優生保護法にさえ違反する手術を受けさせられた体験を、25年以上も前から、全国でただひとり、顔も実名も明らかにして訴え、実態解明と謝罪を求めてきた経緯があります。

今回の緊急シンポジウムでは、佐々木さんの活動を記録した映画『忘れてほしゅうない~隠されてきた強制不妊手術』(2004年制作)を上映し、この問題に長年取り組んでこられた利光恵子さん、障害者の人権問題に詳しい横藤田誠さんに、これまでの経過を報告していただくとともに、この問題に私たちがどう向き合うべきかを、語っていただきます。ぜひ、ご参加下さい。

**広島市総合福祉センター ホールA+B \*アクセスは 裏面**

**お問い合わせ**

特定非営利活動法人 障害者生活支援センター・てごーす

〒733-0025 広島市西区小河内町2-7-5 Yビル1階

●TEL:082-294-4185 ●Mail:tego-s@nifty.com(担当:川本・松尾)

資料代:500円  
※申込み不要



**利光恵子さん**

(立命館大学生存学研究センター客員研究員。  
科学技術史)



**横藤田 誠さん**

(広島大学大学院社会科学部教授。広島県  
障害者差別解消支援地域協議会会長)

## 映画「忘れてほしくない～隠されてきた強制不妊手術～」



2004年 優生思想を問うネットワーク制作。  
脳性マヒの佐々木千津子さんは、20歳の時、何も知らされないまま、卵巣への放射線照射を受けた。

この映画は、佐々木さんの日常生活と、この問題に取り組む彼女の姿を紹介しつつ、優生思想の歴史をイラストやアニメを交えてわかりやすく解説し、強制不妊手術の実態と、今もある優生思想の存在を、私たちに問いかける。監督は下之坊修子さん。ビデオ工房AKAME製作。

## 利光恵子 (としみつ けいこ) さん プロフィール

大阪大学薬学部卒業。薬剤師として働くかたわら、旧「優生思想を問うネットワーク」等で活動。50歳で立命館大学大学院先端総合学術研究科に社会人入学し、博士課程修了。

現在、立命館大学生存学研究センター客員研究員、「生殖医療と差別・紙芝居プロジェクト」会員、「女性のための街かど相談室ここ・からサロン」共同代表。「優生手術に対する謝罪を求める会」メンバー。著書に、『受精卵診断と出生前診断 ― その導入をめぐる争いの現代史』(生活書院)、『戦後日本における女性障害者への強制的な不妊手術』(立命館大学生存学研究センター)など。

## 横藤田 誠 (よこふじた まこと) さん プロフィール

福山市芦田町生まれ。5歳の時、当時広島市にあった肢体不自由児施設若草園に入所。福山養護学校中学部から広島県立府中高に進み、広島大へ。同大大学院社会科学研究科博士後期課程単位取得。広島国際大教授を経て2006年から広島大学大学院社会科学研究科教授。著書に『法廷のなかの精神疾患-アメリカの経験-』(日本評論社)、共著に『人権入門～憲法/人権/マイノリティ』(法律文化社)など。

## ★会場アクセス★

### 広島市総合福祉センター

広島市南区松原町5番1号 電話:082-264-6420  
(BIG FRONT ひろしま 5・6階 ※今回の会場は5階です)

広島駅南口のビックカメラがある高層ビルの中。表示がなく、わかりにくいので、  
ご注意ください!



交通アクセスはコチラ!

<https://shakyo-hiroshima.jp/sub/access.htm>

駐車場のご案内等もコチラ。スマホのカメラでどうぞ! ▶▶▶▶▶▶



## 佐々木千津子記念 にゃろめ基金

放射線照射による違法な優生手術の被害者として、日本はおろか、世界でただ一人カミングアウトし、実態解明と謝罪を求め続けるも、2013年8月、急死してしまった佐々木千津子さん(広島市)の遺志を引き継ぎ、その取り組みを社会に広く伝え、後世に継承していく事業・活動を支援することを目的として、佐々木さんの葬儀の際に寄せられた志などを原資に、2014年8月設立。運営委員長は、川本澄枝てご一す代表。